



平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

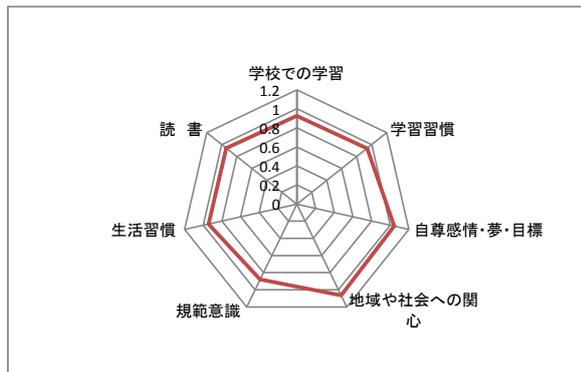
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・領域「読むこと」や観点「読む能力」は全国平均を上回っている。漢字の読み書きは全国平均並みであり、今後も継続的な指導を行う。	同程度
国語B	・問題文を正確にとらえ、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いを選択したり、引用して書いたりする力が育っている。	上回っている
算数A	・計算力については、取組の成果が少しずつでている。その中で、「量と測定」「数量関係」領域については、一層の定着を図る必要がある。	下回っている
算数B	・考え方を選択したり、適用したりする力は付いている。しかし、問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。資料の中で、問題を解決するために必要なことを判断する力を育成していきたい。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲーム等の使用時間は、1時間未満の割合が減少し、1～2時間の割合が増加するなど、全体的に増えている。また、4時間以上の長時間の利用している児童が全国平均よりも多い。 ・地域や社会への関心が全国平均よりも高く、地域の行事などへ楽しみながら参加している児童が多い。 ・読書への興味・関心の割合が減少している。学習課題の調べ学習に本の活用を結び付けるなど、本を手にする機会を増やす取組を進める必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・基礎的・基本的な学力向上のため朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。
- ・担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。
- ・学力定着サポートシステムの学習プリントを単元末や学期末に効果的に活用し、基礎基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭教育学級の講座や特設授業を保護者や児童に行い、テレビゲーム等メディアの接触について指導・啓発を行う。PTA協議会が行っている「ケータイ夜10時電源OFF運動」の周知を行い、PTAと一緒に啓発を進める。
- ・学級懇談会や個人懇談会、学校便り等を通して、家庭学習や読書の価値を保護者に伝え、その徹底を図る。